

平成 24 年度事務事業評価調書

事業コード	03010301	区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行	<input type="checkbox"/> 経常	
事務事業名	英語教育推進事業	担当部署名	教育課教育グループ		
		作成責任者職氏名	課長 清水正幸	内線	650
第4次総合計画体系	(基本柱)	(基本施策)	(細施策)		
	03教育・歴史・伝統	01学校教育の推進	03外国語活動・教育の充実		
実施期間	<input type="checkbox"/> 単年 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成23年度～ 年度)		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助等	
根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等の名称	義務付け	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

I 事務事業の概要<Plan>

(1)事務事業の目的及び内容	(2)対象(誰を対象とするのか)
①目的 義務教育修了段階で自分の考えや意見を英語で伝えられる生徒の育成をめざす。 ②内容 「読む」「書く」「聞く」「話す」をバランスよく育む授業への改善、家庭学習教材を開発し自学自習力を育成、英語検定3級相当の学力を身につける。	中学生
(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)	(4)事務事業を進める上での課題や問題
英語力の向上	英語課程の時間

II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
	22 年度 実績	23 年度		24 年度 事業費(見込)	25 年度 事業費(見込)			
		事業費(予算)	実績(見込)					
事業費(見込含む)(千円)(A)	0	3,100	2,353	2,000	2,000			
財源内訳	国庫支出金							
	府支出金		2,000	1,522	1,000	1,000		
	分担金・負担金							
	使用料・手数料							
	起債							
	その他の特財							
一般財源	—	1,100	831	1,000	1,000			
人件費	一般職員所要人員(人)(B)		0.10	0.10	0.10	0.10		
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	0	622	622	622	622		
総コスト費(千円)(A+C)	0	3,722	2,975	2,622	2,622			
人口あたりコスト(円)	0	604	483	425	425			
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	23 年度			24 年度 目標値	25 年度 目標値
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	英語検定5級程度(中学1年生)合格率	%	70	95.8	137%	70	70
②	目標指標	英語検定4級程度(中学2年生)合格率	%	50	93.8	188%	50	50
③	目標指標	英語検定3級程度(中学3年生)合格率	%	30	64.7	216%	30	30

○目標指標評価値(達成率平均値) 540% / 3 = 180% (A)

III 事務事業の評価<Check>

(1)成果の自己検証		
評価項目	評価結果	評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	4 4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	第4次千早赤阪村総合計画に、「幼・小・中の一貫した教育を進めるとともに、外国語活動、教育の充実など村の特性を生かした学校づくりを進めます。」とあります。英検の合格率から見ても、英語が話せる児童生徒を育てる村の政策姿勢に、大いに貢献していると考えます。
②有効性 ※期待された効果が得られているか	3 4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	英語検定テストに向けて生徒の学習意欲は高まった。この事業で購入したCDや学習教材で、放課後などに自主的に学習する姿も見られた。英検3級の合格率が目標の70%に達しなかったが、1年生で3級を受ける生徒や2・3年生で、準2級を受ける生徒もおり、英語学習への効果はあったといえる。
③効率性 ※効率的に進められているか	4 4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	英検の試験は各学期に行われており、自分のレベルにあった級を受験できることと、合格しようという気持ちで学習に臨むことから、意欲が高まり、良い効果を生んでいる。また、幼・小で英語活動をしてきた素地を生かして進められるという点でも、非常に効率的に進められていると考えられる。
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	3 4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	英語検定試験は、自分のレベルにあった級を遠くの会場に行かなくとも、中学校の教室で受験できることから、受験する生徒は増えている。しかし、休日に用事などと重なるなどして、受験できないものもいる。昨年度は、135人中93人が受験した。さらに受験する生徒の割合を増やす。

○事務事業評価値 (①～④の合計/16)	14 / 16	88%	(B)
-------------------------	---------	-----	-----

(2)検証結果			
目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A)+(B)/2	評価ランク(改善の目安)
180%	88%	134%	a
a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30~49%(休止・廃止又は縮小) b: 70~89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止) c: 50~69%(縮小又は見直し改善)			

IV 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	②改善の方向性の理由、改善する上での具体的な改善策や課題等
A	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
大阪府教育委員会が行っている「使える英語プロジェクト事業」と連動して行っており、今後も引き続き、村独自の外国語活動の推進を図るため、英語力向上に向けさらに取り組みを進めていく。	

V 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
村独自の教育を進めるため、少人数の特性を活かした「読み・書く・聞く・話す」の英語力の向上を図るため、当該事業は継続すべきと判断する。 今後も引き続き、当該事業の検証を実施するとともに、生きた英語、話せる英語が習得できるような新たな施策展開や事業の拡充が必要と考える。	A A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(2)第三者による有識者会議結果	
・教員の教育活動や経験の共有化・映像化などが必要である。他の市町村の良いモデルになり得る。 ・子どもたちの意見の集約も必要ではないか。 ・自分の意見や考えを英語で発表できるなどの場を設けてもよいのではないか。 ・経費をかけずネイティブスピーカーと話せる場を作れないものだろうか。 ・幼稚園から中学卒業までの継続した英語教育は日本の社会の要請でもあり、ますます村の英語教育が拡充されていくことが期待される。 ・英語科学習と外国語活動をより連携させるように外国からの留学生の受入れ、海外の幼稚園、学校との交流などの方法もよいと思う。 ・英語教育に取り組む村の事業は、大いに評価できる。村内在住の英語能力のある人をボランティアとして積極的に活用する方策を考えるべきである。 ・英語教育について学校だけでなく公共の場での発表を増やしてはどうか。そうすれば村の事業の理解が深まり、村に住みたい人の拡充に生かされればと思う。	A A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(3)行政経営戦略会議結果	
村独自の教育を進めるため、少人数の特性を活かした「読み・書く・聞く・話す」の英語力の向上を図るため、当該事業は継続すべきと判断する。	A A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し

今後も引き続き、当該事業の検証を実施するとともに、生きた英語、話せる英語が習得できるような新たな施策展開や事業の拡充が必要と考える。また外部評価の意見を踏まえ、さらに充実を図る。

ハ

〽. 元〽

D: 縮小

E: 休止・廃止